平成30年度　学校経営計画評価シート

高知県立盲学校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	『入学して良かった、入学させて良かった、働いて良かった学校になる』 1　一人一人が確かな学力と専門技術を身に付け、社会参加と自立に向けて学ぶ意欲を持てる学校 2　一人一人の人権が尊重され、安心して学習・生活ができる環境が整った学校 3　地域のニーズに応える、視覚障害教育のセンター的機能を有する学校 4　教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、幼児児童生徒、保護者、地域から信頼される学校	目指すべき姿の実現に向けた取組の概要	県内唯一の視覚障害児・者を教育する学校として、「創立90周年」の本年度を一つの節目とし、今一度、盲学校として果たす使命・役割について、在籍幼児児童生徒の実態や地域・社会のニーズ等を踏まえ、以下の5点について重点項目として取組を進めながら、具体的に検討を行う。 1　授業実践力・指導力の向上 2　視覚障害教育における専門性の向上 3　視覚障害教育におけるキャリア教育の充実 4　視覚障害教育のセンター的機能の充実 5　地域と連携した学校安全の推進
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域の連携・協働		児童生徒像	『主体的に学習、行動できる幼児児童生徒』 1「まなぶ」　自ら主体的に学ぶことができる幼児児童生徒 2「あゆむ」　自ら障害に向き合い、自己実現に向けて積極的に行動できる幼児児童生徒 3「つながる」 周りの仲間とのつながりを大切にし、社会参加できる幼児児童生徒		

《重点取組項目》

評価規準
A:設定した目標を十分達成できた。　B:設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。　C:設定した目標に対し、成果が不十分であり。課題が残った。　D:設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

項目	目標 【P】	評価指標	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	年度末評価 【C】	学校関係者評価	見直しのポイント 【A】
（専門性の向上） 授業実践力・指導力の向上	○「主体的・対話的で深い学びの実現」及び「視覚障害のある幼児児童生徒の困難さの状態に対する手立ての工夫」を視点に置いた授業改善に努め、学校全体の授業力・指導力の向上を図る。	○学校評価アンケートによる児童生徒の授業満足度（そう思う、ややそう思う）70%以上 ○教員の取組率100%	○自己目標設定シートに、授業改善（生活改善）に向けた取組を明記し、各自がPDCAサイクルを意識した取組を行う。 ○全員が1学期の公開授業週間、2学期の各自設定の公開授業を実施するとともに、コメントシート、研究協議を参考に、授業改善を進める。 ○ケース会や学部研究等を通して、各幼児児童生徒に応じた手立ての共有や検討を進め、指導力の向上につなげる。 ○積極的に外部専門家からのアドバイスを受け、授業改善に活かす。	B	【6月末】 ・面談において各自の授業改善（生活改善）に向けた取組の確認 ・公開授業（6/18～6/22)全員実施 コメントシート回収73件（昨年比9件減） 【8月末】 ＜学部研＞ 幼小学部：全盲児の学習指導についての研修4回実施 中等（中学部・高等部普通科）：グループ別に授業改善に向けた課題の共有等の研修4回実施 理療科：ケース会1回実施 ＜外部専門家活用＞ PT（若草養護）3回（研修会1回含む） ORT 1回、OT 1回 ※授業評価アンケート（生徒）未実施	B	・最終面談において各自の授業改善（生活改善）に向けた取組の確認 ・研究（公開）授業（9/28～11/15)全員実施 ＜学部研＞ 幼小学部：全盲児の学習指導についての研修8回実施 中等（中学部・高等部普通科）：グループ別に授業改善に向けた課題の共有等の研修10回実施 理療科：ケース会2回実施 ＜外部専門家活用＞ PT（若草養護）4回（研修会1回含む）、ORT 1回、OT 2回、ST2回、ICT1回 ＜学校評価アンケート（関連事項）＞ ・授業に満足していますか。【生徒】（そう思う87．5%、ややそう思う12．5%） ・教育活動に満足していますか。【保護者】（そう思う33．3%、ややそう思う53．3%、思わない6．7%、わからない6．7%） ・実態に対応した学習指導に努めていますか。【保護者】（そう思う60%、ややそう思う33．3%、あまり思わない6．7%） ・外部専門家等と連携した教育活動ができていますか。【保護者】（そう思う40%、ややそう思う40%、そう思わない6．7%、わからない13．3%）	B	○授業に対する評価も高く、満足している様子が伺える。 ○生徒の満足度が高いことは非常にすばらしいと思います。 ○各学部ごとでの見え方に応じた学習指導の研修会を開催しており、指導力の向上に向けた取り組みを行っていると思います。 ●教職員の授業改善に向かう姿勢や子どものために努める姿勢に少し温度差があることが見られます。特に、生徒が悩みや相談がいつでもできて、丁寧にそれに対応できる校内体制があれば、更に充実した学校生活が保障できると思います。 ●「授業に満足していない」という生徒からの評価がないことは評価できるが、保護者から「思わない」「あまり思わない」「わからない」という結果から、生徒を通して保護者に伝わるような指導を期待したいです。	○学校の取組について、そのねらいや、経過等について、しっかりと伝えていく必要がある。 ○授業改善について、学校全体・チームとして取り組む体制を構築する必要がある。
（専門性の向上） 視覚障害教育における専門性の向上	○「歩行指導」「点字指導」「情報教育」「生活技術」「弱視教育」「寄宿舎教育」の各分野において、専門性の維持・継承を行うため、キャリア、学部、職種を超えた人材育成を進める。	○各自、一つ以上の分野において、新年度の校内新転任者研修で、講師を務めることができるレベルとなる（2年計画）	○月1回の専門基礎研修日を設定し、各グループでOJT研修を実施する。 ○木曜日をノー会議デー「モー君の日」とし、各自が視覚障害教育について積極的に学び合える環境を整える。 ○ニーズに応じたミニ講座（教員が講師）を積極的に開催し、日々の指導に活かす。	B	【8月末】 ・月1回（1学期3回）全教職員が6グループに別れて、専門基礎研修を実施。 ・8月4日（土）開催の本校オープンスクールにおいて、専門基礎研修グループを中心に講座を担当。高校生ボランティアスクール、防災訓練フェア（城西中学校）に、点字、歩行のグループを講師派遣の予定だったが台風のため中止・延期 ・「モー君の日」を活用したミニ講座の実施5回 ・全日盲研（仙台）2名、中四盲研（島根）2名、道徳指導者講習会2名派遣（各学部等で報告） その他、自費で県外で開催の点字講習会、乳幼児研修会に参加している。	B	・月1回全教職員が6グループに別れて、専門基礎研修を実施。 ・「モー君の日」を活用したミニ講座の実施8回 ・教育課程研究集会、特別支援教育講座（外部講師）、触察指導研修会（外部講師）、視覚リハビリテーション研究会（歩行訓練）、筑波大学公開講座（自立活動）、その他、自費で県外で開催の点字講習会、乳幼児研修会に参加している。 ・高校生ボランティアスクール、防災訓練フェア（城西中学校）に、点字、歩行、生活のグループを講師派遣 ＜学校評価アンケート（関連事項）＞ ・見え方や見えづらさに配慮した授業を行っているか。【生徒】（そう思う62．5%、ややそう思う25%、あまり思わない12．5%） ・障害についての専門的な知識を持ち、指導にあたっているか。【保護者】（そう思う40%、ややそう思う46．7%、あまり思わない13．3%） ・教育の専門性向上に努めているか。【教職員】（そう思う41．3%、ややそう思う58．7%）	B	●専門性の向上に向けて、積極的に研修などに取り組んでいる教職員が大多数で評価できるが、本来、100%でなければならないと考えます。 ●教職員は、100%専門性の向上に努めているとの評価だが、生徒・保護者に「あまり思わない」との評価があることは大きな課題であると思います。特に生徒さんからの「あまり思わない」という回答とのズレは、早急に解決すべき課題であると思います。 ●外部の講師や専門家などを活用し専門性の維持向上に努めていただきたいと思います。	○専門性について可視化し、教職員が自己課題を持って取り組める体制が必要である。 ○生徒・保護者との共通理解を進めるために、学校の取組を積極的に知らせるとともに、意見・要望を聞く機会を多く設ける必要がある。
（キャリア教育の充実） 視覚障害教育におけるキャリア教育の充実	○将来の自立と社会参加につながる一貫した指導の充実を図るため、本校のキャリア教育の視点についての検討を進め、全体計画を作成するとともに、学校全体での取組を進める。	○視覚障害を踏まえた、本校の「キャリア教育の全体計画」の作成 ○高等部3年生（普通科1名、保健理療科1名、専攻科1名）の希望進路実現	○「主事会」「学部会」において、「キャリア教育の全体計画」の検討・作成を行い、活用を進める。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用、今年度の重点目標の設定と目標達成に向けた取組を進める。 ○職場開拓、職場実習、校外臨床実習等を実施し、進路実現に結び付ける。	B	【8月末】 ・キャリア全体計画について、主事会において検討、作成中　⇒学部提案 ・卒業生3名の希望進路実現に向けて、補習等の実施（7/23～26、8/27～31） 普通科生徒　公務員試験受験予定 保健理療科生徒　本校専攻科理療科進学予定 専攻科理療科生　理療科教員養成施設受験予定 ・進路担当を中心とした職場開拓、職場実習（普3高知県教育委員会事務局、普2イオン高知）、理療科校外臨床実習を2回実施。	B	・キャリア全体計画について、主事会において作成、周知 ・卒業生の希望進路実現に向けて、補習等の実施（12/25～28、1/4） 普通科生徒　進学予定（職業訓練校、専門学校） 保健理療科生徒　本校専攻科理療科進学予定 専攻科理療科生　理療科教員養成施設受験 ・進路担当を中心とした職場開拓、職場実習（普2甲中整形外科）、理療科校外臨床実習を1回実施 ＜学校評価アンケート（関連事項）＞ ・「生きる力」「社会性を育む教育」に取り組んでいるか。【保護者】（そう思う40%、ややそう思う53．3%、わからない6．7%） ・キャリア発達を促す指導に計画的に取り組んでいるか。【教職員】（そう思う39．1%、ややそう思う56．5%、あまり思わない4．3%） ・希望進路の実現に向けて取り組んでいるか。 【保護者】（そう思う46．7%、ややそう思う33．3%、わからない20%） 【教職員】（そう思う43．5%、ややそう思う54．3%、あまり思わない2．2%）	B	○職場実習等、積極的に外部との交流ができている。 ●アンケートの結果から、満足度は高いが、広く教職員間で進路等の情報共有が必要だと考えます。 ●視覚障害の見え方、その他障害、家庭環境等様々な背景をもった生徒さんに対するキャリア教育の充実・実践は、容易なことでなく、本人、家族、地域、学校が一体となって進めていっていただきたいと思います。	○「生きる力」「社会性」を育む教育を充実させていくために、キャリア教育全体計画の活用を進めていく必要がある。 ○希望進路実現に向けて、家庭・関係機関との連携を一層深め、取組を進めていく必要がある。
（学校設定項目） センター的機能の充実	○視覚障害教育支援センターの重点取組項目を設定し取組を進めることによりセンター的機能の一層の充実を図る。 ≪地域支援・相談≫ 早期教育（0，1，2歳）対象者の開拓と乳幼児支援の充実 ≪理解啓発≫ オープンスクール開催による理解啓発の推進 ≪自立活動≫ 教材、指導方法のデータベースの充実と活用の促進 ≪進路指導≫ 視覚障害児・者の卒業後の進路についての情報提供・発信	○乳幼児ひまわり教室の新規来校者の確保 ○オープンスクールの取組状況（参加者、開設講座内容、校内体制等） ○データベースの校内ホームページ上への新規アップ数10件以上 ○視覚障害児・者の進路情報についてのリーフレットの作成	○訪問等により、医療・保健・福祉機関との連携を進め、対象者を把握し、積極的に情報発信する。 ○オープンスクールの成功に向けて、計画的に企画・立案を行い、学校全体の取組とするとともに、効果的な広報方法等について検討し実施する。 ○公開授業等を通して、アップする教材等についての情報を収集し、声かけを行い、アップ数を確保していくとともに、校内での活用について呼びかける。 ○リーフレットの作成を進めるとともに、地域支援等で積極的に活用する。	B	＜教育相談（9月4日現在）＞ 教育相談数38名（新規15名）　H29実績 36名（新規17名） 相談件数345件　H29実績350件 ＜地域訪問支援（9月30日現在）＞ 教育相談派遣事業　8訪問9件　H29実績　8ヶ所8件 サポート事業　4ヶ所9件　H29実績　6ヶ所17件 巡回相談員派遣事業　0　H29実績　1ヶ所1件 特別支援学校より派遣依頼　2ヶ所2件　H29実績1件 ＜オープンスクール＞ 8月4日開催　参加者73名 当事者12名　保護者・家族13名、付添2名、児童生徒学生13名、ボランティア団体12名、介護福祉4名、福祉行政7名、医療2名、不明7名、盲学校1名 ＜データーベース＞ 教材・教具校内ホームページアップ数　　件 ＜進路指導＞ 進路だより　回発刊 リーフレット検討作成中（年度内完成予定）	B	＜教育相談（2月1日現在）＞ 教育相談数　59名（新規29名）、相談件数　535件 ＜地域訪問支援（2月1日現在）＞ 教育相談派遣事業　10ヵ所13件、サポート事業　7ヶ所19件、巡回相談員派遣事業　1ヵ所1件、特別支援学校より派遣依頼　3ヶ所4件 ＜データーベース＞ 教材・教具校内ホームページアップ数10件 ＜進路指導＞ 進路だより5回発刊 リーフレット検討作成中（年度内原案完成予定） ＜オープンスクールの感想（抜粋）＞ ・いろいろなことを体験することができてよかった。自分が目隠しをすると歩くことを思っ ていたよりもためらってしまうことが分かった良い経験になった。 ・直接視力障碍のある方と関わることが少ないので、少しずつでも知識を増やしていくことは大切だと思った。 ・すごく楽しかったです。いつも入らない学校で見たことのない工夫がたくさんあり、考えられている点がたくさん見えました。 ・盲学校らしさの出た内容でアピール効果はあると思った。 ＜学校評価アンケート（関連事項）＞ ・乳幼児や学齢児童生徒、保育・教育機関等への教育支援に努めているか。【教職員】（そう思う56．5%、ややそう思う43．5%） ・視覚障害支援のため、地域や関係機関と連携した取り組みを行っているか。【教職員】（そう思う54．3%、ややそう思う45．7%）	A	○アンケートの結果から、教職員がセンター的役割を十分に理解して、教育活動に取り組んでいる姿が見られます。 ○オープンスクール、リーフレット作成等に積極的に力を入れている。 ○学校外での活動に積極的に教職員の方が参加し、盲学校、視覚障害教育支援センターの啓発活動を行い、新規の相談件数も増加していることから評価できると思います。今後も教育、医療、福祉、行政との密な連携を図る活動に期待しています。	○センター的機能については、外部からも一定の評価を受けている。継続した効果を得るために、事業の精選を行い、重点化した取組を進める必要がある。
（学校設定項目） 地域と連携した学校安全の推進	○福祉避難所運営への取組を通して、地域との連携を深め、災害時に助け合える関係づくりを進めるとともに、校内の危機管理体制を更に充実させる。	○福祉避難所マニュアルの作成 ○地域住民との合同避難訓練の実施 ○避難訓練等実施後の課題対応についての校内共有	○関係機関との協議を進め、福祉避難所運営についての役割分担を明確にし、マニュアルの作成と、校内での共有を行う。 ○高知盲新聞の発行や、学校行事のポスター掲示、オープンスクールの実施により地域への情報発信を進める。 ○避難訓練、災害時シミュレーション訓練、緊急時対応訓練、防災研修等を実施するとともに、振り返りを行い、課題について検討し、必要に応じてマニュアル等の改訂を行う。	B	・福祉避難所マニュアル完成 ・地域、高知市との協議実施未定 ・地域との避難訓練⇒避難所運営、障害者理解研修に変更予定 ・高知盲新聞の発刊 5月50部、9月1,350部発刊（高知新聞販売所の協力） ・避難訓練（地震3回、火災1回、シミュレーション訓練1回） ・緊急時対応（搬送）訓練2回実施 ・施設設備点検1回実施 ・防災教育研修会参加者5名	B	・福祉避難所マニュアル作成、校内周知 ・地域、高知市との協議　年度内実施予定 ・避難所運営、障害者理解研修　未実施 ・高知盲新聞の第7号発行　5月50部、9月1,350部発刊（高知新聞販売所の協力）＊第8号年度内に発行予定 ・避難訓練（地震4回、火災1回、不審者1回、シミュレーション訓練1回） ・緊急時対応（搬送）訓練3回実施 ・施設設備点検2回実施 ・防災教育研修会参加者5名 ＜学校評価アンケート（関連事項）＞ ・避難訓練等を通して災害等への指導ができているか。【生徒】（そう思う75%、ややそう思う25%）【保護者】（そう思う46．7%、ややそう思う53．3%） ・南海トラフ地震対策に取り組んでいるか。【保護者】（そう思う46．7%、ややそう思う40%、あまり思わない6．7%）	B	○地域の防災活動（行事）に参加して、手引き体験をしていただくなど、地域とのつながりを持とうという強い意志を感じます。これからも本校（城西中）も共に、地域を大切にできればと願っています。 ○避難訓練などを通して児童生徒、教職員が一体となり災害等への取り組みができていると思います。 ●地域住民に公開授業を実施してほしい。 ●強いて言えば、より一層盲学校（目の不自由な人たち）を地域に知っていただく手立てを考えてほしい。まずはあいさつを（先生方の認識の問題） ●保護者の「南海トラフ地震対策に取り組んでいますか」の回答の「あまり思わない」という回答があることから、保護者が安心して過 わせることができるために取り組みなど保護者や地域に発信を続けていただきたいと思います。	○地域との連携を深めていくためにできることを、児童生徒も参加した形で協議し、取組を進めていく必要がある。 ○防災に関しては、学校の危機管理体制についての年度毎の保護者への周知や、地域、保護者が参加できる研修等の企画・実施を行う必要がある。